

日本学術会議地球惑星科学委員会・IUGG 分科会

IAMAS 小委員会

(第25期・第1回) 議事録

1. 日時：2021年1月10日(木) 17:00-18:00
2. 会場：web を用いた遠隔会議
3. 出席者：中村尚[委員長]、浮田甚郎[幹事；議事録]、竹川暢之[幹事；議事録]、  
中島映至、三枝信子、江守正多、佐藤薫、高薮縁、  
塩谷雅人、松本淳、三好建正各委員(計11名)
4. 配布資料  
資料1-1 第25期 IAMAS 対応小委員会設置提案書  
資料1-2 第25期 IAMAS 対応小委員会委員名簿  
資料1-3 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン  
資料1-4 メール審議の実施について  
資料1-5 IAMAS の紹介  
資料1-6 第25期日本学術会議地球惑星科学委員会組織図  
資料1-7 地球惑星科学委員 IUGG 分科会(第25期第1回) 議事録(案)  
資料2-1 日本学術会議 学術フォーラム 「新たな地球観への挑戦—地球惑星科学の国際  
学術組織の活動と日本の貢献—」  
資料2-2 IAMAS e-Newsletter Issue No 14  
資料2-3 IAMAS e-Newsletter Issue No 15  
資料2-4 The IUGG Electronic Journal Volume 21 No. 1  
資料2-5 IAMAS-IACS-IAPSO Meeting Update

5. 議事

[1] 出席者11名の互選により、中村委員(世話人)が第24期に引き続き第25期の委員長を務めることが決まった。中村委員長から、浮田委員、竹川委員が幹事に指名され、承認された。

[2] 中村委員長から、議事要旨の承認に関して委員長一任となること、小委員会委員間のメールアドレス共有について説明があり了解された(資料1-3、1-4)。

[3] 中村委員長から第25期の活動方針について説明があり、本小委員会は前期に引

き続き IUGG・IAMAS を中心に各種国際委員会に関する情報の共有と提供、日本気象学会との連携を主に活動する事を確認した（資料 1-1、1-5～6）。

[4] 中村委員長から、2020年11月17日に第25期第1回の IUGG 分科会が開催されたこと、2021年2月15日に IUGG 分科会の共催で日本学術会議主催学術フォーラム「地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献」が開催されることが報告された（資料 1-7、2-1）。

[5] 最新の国外情勢に関する情報交換

中村委員長、中島委員、佐藤委員から、2021年7月に韓国釜山で開催される予定だった IAMAS-IACS-IAPSO 合同総会（BACO-2021）が Covid-19 の影響でキャンセルされたこと、2023年にドイツベルリンにおいて開催予定の次回 IUGG 総会に向けた準備状況についての報告があった（資料 2-2～5）。

[6] その他

中村委員長、佐藤委員から、2021年1月14日に日本学術会議主催学術フォーラム・第11回防災学術連携シンポジウム「東日本大震災からの十年とこれからー58学会、防災学術連携体の活動ー」がオンラインで開催される事が報告された。関連して、気象・地震災害などの有事対応に気象庁、日本学術会議、気象学会の連携、情報共有が重要である事を確認した。

三枝委員から、日本学術会議の大型研究計画に関するマスタープランの改訂については、今後の予定が不明である中、それに対応する地球惑星科学委員会の検討が始まっており、ヒアリングに向けたプロセスが2021年中に始まる予定であることが報告された。

中島委員、佐藤委員、高藪委員を中心に、第23期に日本学術会議から発出された提言「我が国の地球衛星観測のあり方について」のフォローアップとして、第24期に提言「持続可能な人間社会の基盤としての我が国の地球衛星観測の在り方」が日本学術会議地球惑星科学委員会で承認された事を受け、将来の地球衛星観測について継続して日本学術会議を中心に提言を発出する重要性について意見交換を行った。